

中学生意見発表会

なかのZEROホール

<題> 「1 + 1 = ∞ (無限大)」



南中野中学校 生徒会長

先月の朝日中学生ウィークリーに、面白い記事が載っていました。内容は、日本有数の飲料品製造メーカーで知られるサントリーが、『青い薔薇』の開発に成功し、販売を開始したということでした。これには、驚きました。まず一つ目に、なぜ青い花なのかということです。青は幸福感のある色だからという理由でした。確かに、メーテルリンク氏作の童話、「青い鳥」にも、幸せを呼ぶ青い鳥が登場し、このことから、それは感じられます。そして、二つ目に、何といても『青い薔薇』の誕生です。今まで、幾人もの植物を研究する学者たちが挑みましたが、その多くが失敗や、出来ても少し青色色素の入った灰色に近いような薔薇ばかりしか作ることが出来ませんでした。そのことから、英語で「Blue Rose」は、不可能の代名詞にも使われていたほどです。では、どのようにして、今まで誰もなし得なかった『青い薔薇』を作れることを成功させたのでしょうか。研究チームはまず、『青い薔薇』を咲かせるための遺伝子を探しました。ひとつの植物は約三万種類の遺伝子で構成されていることから、その苦労の膨大さがうかがえます。遺伝子を見つけた後も、薔薇との相性があわずに何度も失敗を重ね、ついにパンジーの遺伝子だけが適していることを突きとめました。このパンジーの遺伝子を薔薇に組み替えることで、ほぼ100%の割合で青色色素を配合した、正真正銘、世界初の『青い薔薇』が誕生したのです。

私は、この記事を見て、とてもわくわくしました。今まで不可能とされてきた『青い薔薇』が誕生し、これからどんな風に活用されていくのか、またその青いバラを手にした人たちにどんなことが起こっていくのか、これから広がっていく可能性に期待が膨らんでいます。

統合は、南中野中学校を『青い薔薇』に変えてくれたのでしょうか。

9月30日、びっくりするようなことが起きました。中野区の総体陸上で南中野中学校が男女共に総合優勝したのです。南中野中学校は4月に統合したばかりの新しい学校です。みんなが新生で、期待と不安の両方を抱えています。それだけに、今回の優勝は、学校

全体に嬉しい衝撃をもたらしました。今までは、一中にも、そして陸上で有名な中野富士見中にも優勝経験は一度もありませんでした。その中で、統合し、両校の選手が同じ母校を背負って立つことになって初めて、今回の総合優勝という快挙を成し遂げることが出来たのです。統合によってただ学校がひとつになっただけでない、1 + 1 = 2 だけではない何か違った式が、この南中野中には存在しているのかもしれない。

私たちは、パンジーと薔薇なのかもしれません。パンジーがいなければ青色色素は出せないし、薔薇がいなければ、ただの青いパンジーです。相性のあう二つが一緒になって初めて、『青い薔薇』が誕生しました。1 + 1 が、まったく別のものになったのです。一中と中野富士見中も同じです。どちらが欠けても南中野中学校は誕生しなかったし、この二校だからこそ、南中野中になったのです。そして、私が『青い薔薇』を見て感じたように、これから、南中野中学校の可能性は広がっていくでしょう。私たちは二つの学校で、それぞれ違った学校生活を送ってきたと思います。だからこそ、私たちにしか出来ない、大きな花を咲かせるべきなのです。1 + 1 が、まったく別のものになるとき、そのものの持つ可能性は、無限大に広がっていくのですからその歴史を消してしまうのではなく、大切にしてきたことで、南中野中の歴史は二倍の厚みを持つようになりました。その大きな歴史を生かし、これからの南中野中を作り上げていくのは私たちです。私たちは、この南中野中をどんな風にも、これから変化させていくことが出来るのです。それが、統合することなのだ……

